

災害を読む・映像で見る



文学を読む

●『関東大震災』(B913.6)【書庫】

大正12年、関東を激震が襲った。しかし人びとを苦しめたのは地震だけではなく…。具体的な事実や証言の描写から、当時の様子が実感できる記録文学。著者・吉村昭の『三陸海岸大津波』は、東日本大震災を機会に話題となりました。

●『空白の天気図』(B916)【書庫】

原爆投下・終戦直後、到来した枕崎台風によって広島で2千人を越える人命が失われたということはあまり知られていない。広島気象台に勤務する気象台員を主人公に、二重の苦難の中、人々がどう生きたかを柳田邦男が描いた作品。

他にもこんな本があります…

●『イレギュラー』(テコ 913.6)【3F】 水害に見舞われ、村民全員で避難生活を余儀なくされた村とその村の高校野球部員たちの物語。

●『大震災の記録と文学』(916)【3F】 文学者が残した大震災の記録をまとめた本。須知徳平の小説「三陸津波」や田中貢太郎の関東大震災「見聞録」なども収録。



映像・記録を見る

●『伊勢湾台風物語』(ビデオ) 伊勢湾台風が襲った日の出来事を描いたアニメ。小6のひかりは運動会を楽しみにしていた。しかしその日、大きな台風による高波が人も建物もあつという間に飲み込んでいった…。

●『20世紀日本の地震災害』(ビデオ・DVD) 20世紀に日本で起きた地震災害のデータや被害を記録した映像などを収録。

● コラム 「大正の広重」 初三郎が描いた関東大震災

大正から昭和にかけ、全国各地の観光地や都市の美しい鳥瞰図を描いたことで知られる吉田初三郎(1884-1955)。当館でもその鳥瞰図を多数所蔵していますが、その中の異色の作品に『関東震災全地域鳥瞰図絵』があります。震災から1年後の1924(大正13)年9月に新聞の附録として刊行されたものです。

相模湾の震源地を中心に1府6県に及び被災地の全域を描いていますが、38,000人が焼死したといわれる本所の被服廠跡をはじめ、帝国大学や警視庁の炎上、横浜の貯油槽の爆発、鉄橋の崩落など、実際の被害をふまえて描かれていることがわかります。東京や横浜の街が赤々と燃え上がる様子は印象的です。

通常観光案内などに用いられる鳥瞰図に、事実や歴史を記録する大きな力があることを、この作品は示しています。



『関東震災全地域鳥瞰図絵』(愛知県図書館蔵)